

信州『学びの郷』スーパー e ネットの構築について

H30.4 企画振興部 情報政策課

1 趣 旨

県内のすべての公立小・中学校を超高速通信回線で結ぶ「信州『学びの郷』スーパー e ネット」を構築し、ICTを活用した質の高い学びの実現に資する。
さらに、整備したスーパー e ネットを地域の情報通信基盤として有効利用を図る。

2 内 容

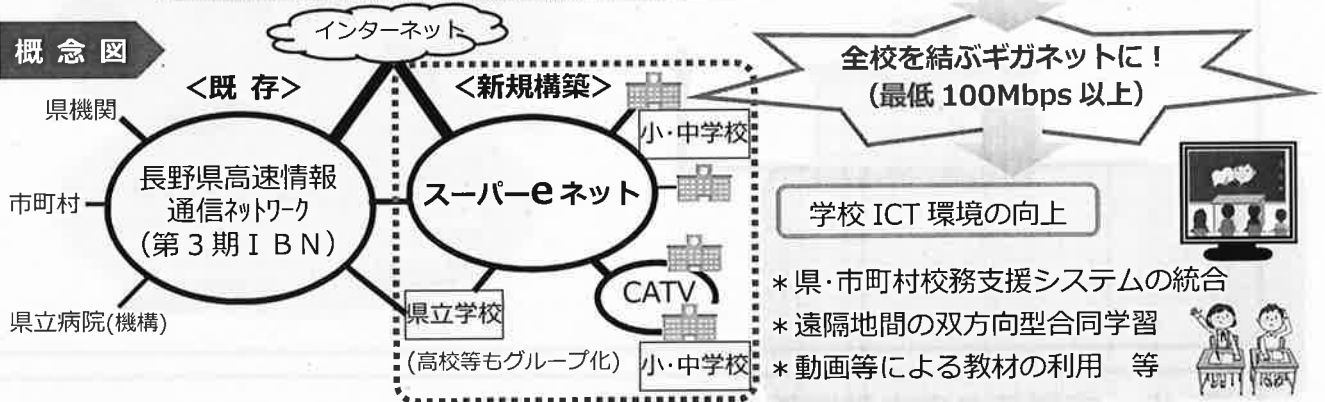
必要性

- ▶教育の質的改善を図る ICT 環境整備には、ICT 機器等の十分な活用を支える高速かつ安全なネットワーク基盤が必要
- <文部科学省「2020 年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ (H28.7.28) >
 - 超高速インターネットは、100Mbps 以上を標準とする。
 - 統合型校務支援システムの普及には、万全な情報セキュリティ対策が大前提

現 状

- ▶約 8 割の県内小・中学校の通信回線が 100Mbps 未満

概念図



構築体制

- ▶県・市町村が連携して共同構築 (IBN、情報セキュリティクラウドでの実績・ノウハウを活かす)
- 共同構築のメリット
 - 団体ごとの個別調達と比べコスト圧縮
 - 全県での統一的・安定的な運用と必要なセキュリティ水準の確保
- ▶活動中の県・市町村の検討組織で課題共有・詳細検討 (H29 年度から開始)
 - ◆〔県教委〕「ICT を活用した質の高い学びの実現」検討 PT (教育サイド)
 - ◆〔自治振興組合〕県市町村高速ネット利活用調査研究WG (情報政策サイド)

検討課題

- ▶ネットワークの構築方法
 - 具体的なネットワーク構成・構築手法 (ex. 現行 IBN との関係、“教育用第二 IBN”方式、地域 CATV や市町村の既存小中学校ネットワーク活用と接続方法等)
 - 情報セキュリティの確保 (校務系、学習系、地域利用系との通信分離等)
- ▶市町村の状況に応じた地域の情報通信基盤としての有効利用
- ▶経費負担 (IBN 方式と同様に、利用主体 (者) 負担を基本)

地域での有効利用 …裏面参照

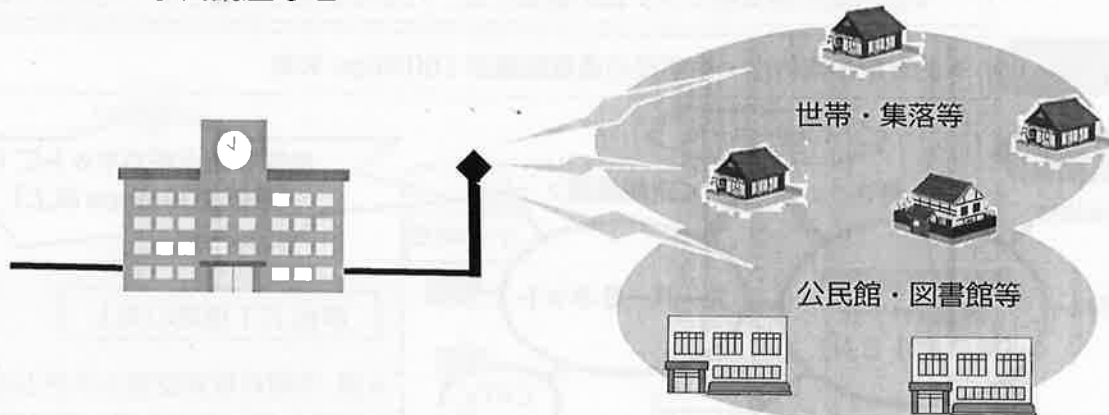
3 工程表 (案)

取 組	H29	H30	H31	H32	H33	H34
(参考： IBN 更新日程)	現行 (第3期) IBN H29.7~H34.6					第4期 稼働 H34.7~
①スーパー e ネット の構築 (参考: 教委) ICT 機器共同調達 校務支援システム 学校セキュリティ対策		構築方法検討 ・ 仕様作成	仕様作成	発注 手続	構築・移行作業	全校接続 ・ 利用開始
		検討 ~ 共同構築		発注 手続 (校務系は当面クラウドで順次運用)		
		セキュリティ対策の検討・実施		(校務系システム・学習系システムの分離)		
②スーパー e ネット の地域利用		地域利用モデル検討		地域利用準備、可能な地域・市町村から運用開始		

信州『学びの郷』スーパー e ネットの地域利用 《市町村による主なサービス提供例》

① 民間の情報通信サービス未提供地域の解消・補完

- 市町村による集落等へのブロードバンドサービスの提供
・無線（地域 BWA 等）の活用など
- 学校、公民館、図書館、世帯等を結ぶ学びのネットワーク
・遠隔生涯学習講座など



② 小・中学校の空き教室等の多目的利用

- コワーキング/テレワークスペース
・市町村が民間事業者・団体等に場所を貸出
- 観光案内所
・映像・地図等による観光案内、地域の情報発信



③ 防災拠点（体育館等の避難所等）への無線 LAN 整備

- 避難所等への公衆無線 LAN 整備
・平常時は児童生徒の教育に、
災害時には、地域住民の避難用に活用可能
・地域の防災拠点としての学校の機能強化

